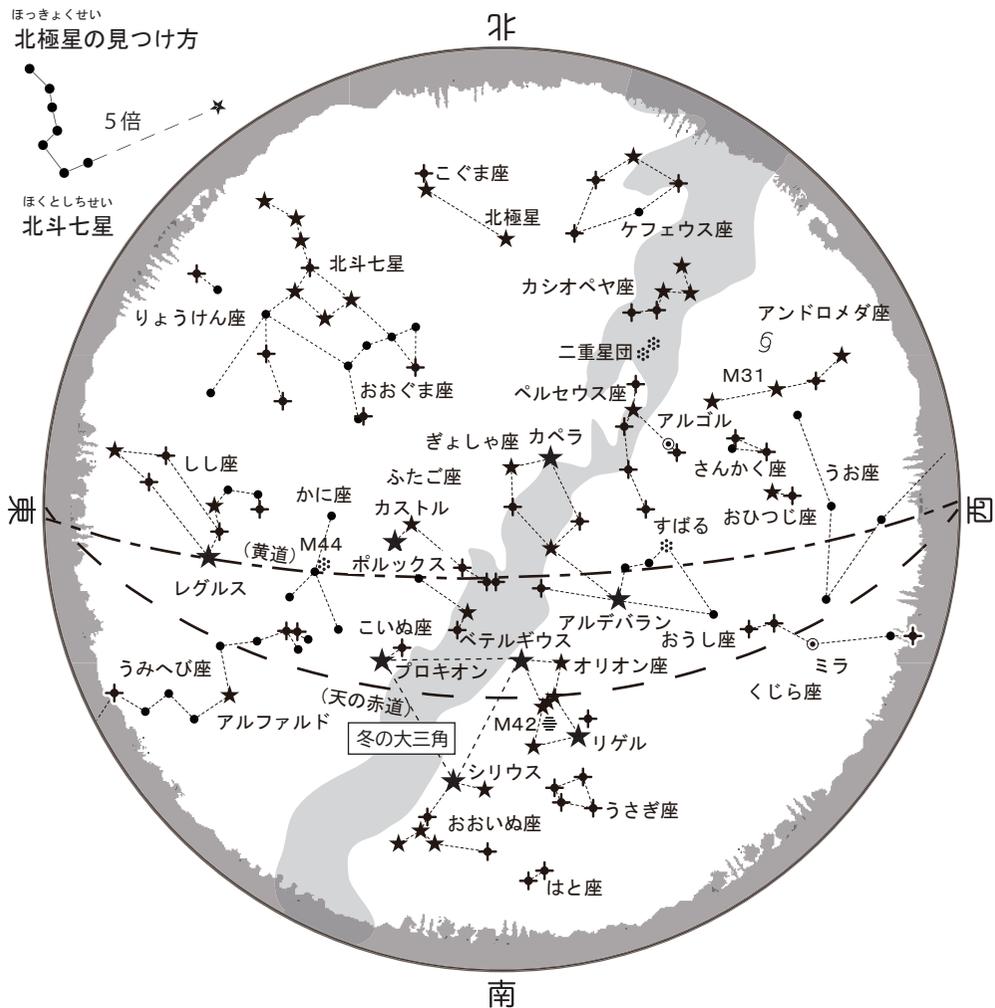
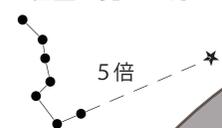


# 富山でみえる 2022年2月の星空

自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見てみよう。



ほっきょくせい  
北極星の見つけ方



ほくとしちせい  
北斗七星

東

西

南

- ★ 1等星と、より明るい星
- ★ 2等星
- ✦ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ☄ 星雲
- ♁ 銀河

この星空が見えるのは  
2月 5日 午後9時ころ  
2月 20日 午後8時ころ  
3月 5日 午後7時ころ

～月のようす～

2月 1日 新月 ●  
2月 8日 上弦 ◐  
2月 17日 満月 ○  
2月 24日 下弦 ◑

## オリオン座



砂時計のような形をした星の並びがオリオン座です。左上の赤くて明るい星はベテルギウス、右下のやや青みがかった明るい星はリゲルで、ともに1等星よりも明るい星です。またこの星座には、オリオン大星雲（M42）と呼ばれる明るい星雲があります。

## ふたご座



冬の大きな三角の上で、なかよく並んだ2つの明るい星がふたご座の目印です。やや黄色っぽい色の1等星が弟の星ポルクス、白い色の2等星が兄の星カストルで、色の違いがきれいです。カストルは望遠鏡を使うと白い星が2つ並んで見えます。

## ぎょしゃ座



ぎょしゃとは馬車の運転手のことです。黄色の0等星カペラが目印で、このカペラをふくむ、少しつぶれた五角形の形に星をつなぎます。カペラには「小さなメス山羊」という意味があり、星座絵でも山羊をかかえた男の人が描かれています。

## おおいぬ座



ひときわ明るく、ぎらぎらと輝いている青白い星シリウスが目印です。シリウスは地球との距離が8.6光年と、広い宇宙の中では比較的近くにある恒星です。また明るさはおよそマイナス1.5等と、太陽以外の恒星の中で最も明るく見える星です。

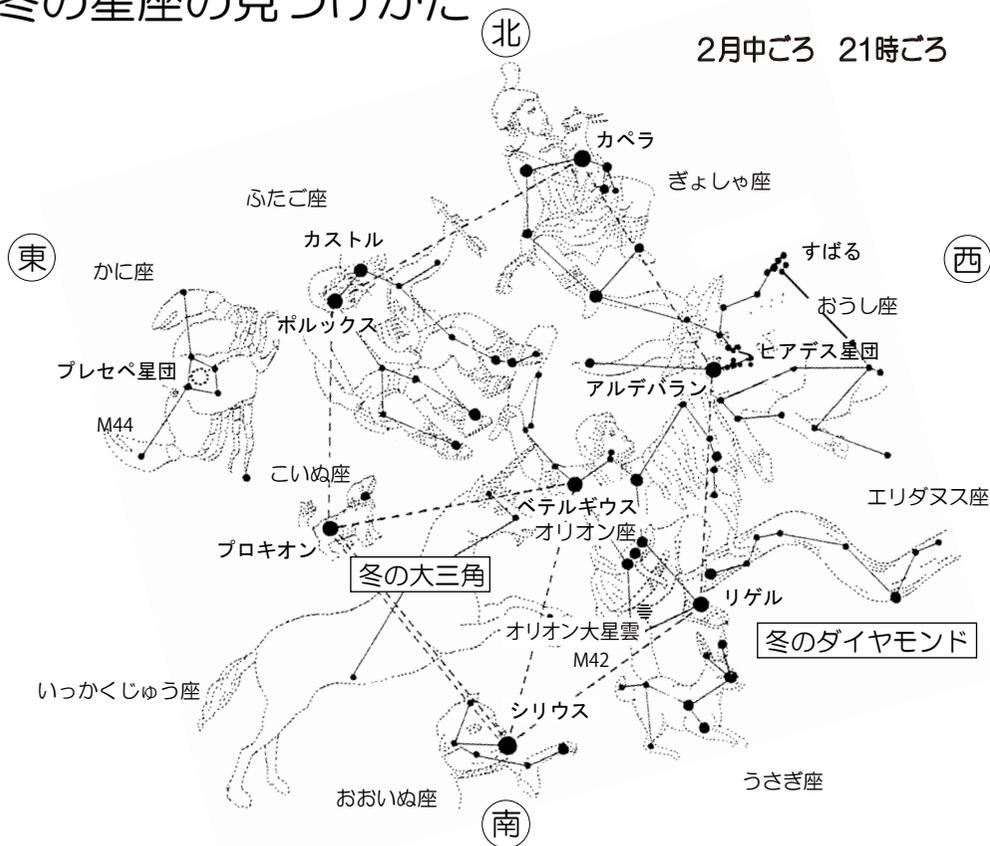
## こいぬ座



冬の大きな三角を作る明るい星の一つ、プロキオンが目印です。プロキオンには「犬の前」という意味があり、東の空でシリウスの少し前に昇ってくることからつけられたそうです。こいぬ座とおいぬ座は、ともにオリオンの猟犬とも言われています。

# せいざ 冬の星座の見つけかた

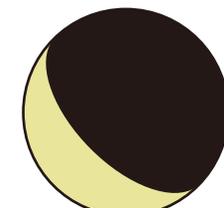
2月中ごろ 21時ごろ



- 1 南の空に、砂時計の形をしたオリオン座を見つめます。
- 2 オリオン座の真ん中の3つ並んだ星（三つ星）を左下にのばして、冬の星空で一番明るいシリウスを見つめます。オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンで作る「冬の三大角」を見つめます。
- 3 オリオン座の三つ星を右上にのばして、おうし座のアルデバランを見つめます。
- 4 アルデバランの北に、カペラをふくむ五角形の形のぎょしゃ座を見つめます。
- 5 ぎょしゃ座の東に、明るい星が2つ並んだふたご座を見つめます。
- 6 1等星以上の明るさのシリウス、プロキオン、ポルクス、カペラ、アルデバラン、リゲルをつないでできる大きな六角形が、「冬のダイヤモンド」です。

○日の出前の南東の空で金星が明るい！

2月の日の出前の南東の空には、金星がたいへん明るく輝いています。金星は13日に最も明るくなり、マイナス4.9等になります。これは1等星の100倍以上という明るさです。金星が最も明るく見えるのは、金星と地球とが最も近づいたとき、というわけではありません。金星は、地球の内側を公転しており、最も近づいたときには、金星の夜（暗い部分）しか見えないため、新月のときの月と同じく、見ることはできません。では、満月のように丸いときかということ、そのときは地球からの距離が遠いので明るく見えません。そのため、金星と地球の距離がほどほどで、金星の昼間の部分がそこそこ見えているときに最も明るくなり、図のように欠けた姿をしています。早起きをして、1等星の100倍以上明るい「明けの明星」を見てみませんか。



○細い月が金星と火星に接近

27日の日の出前には、3月3日に新月となる細い月が金星に近づき、目を引く眺めとなります。早起きをして、南東の方角が開けた場所で観察してみてください。金星のすぐ下には、それほど目立つ明るさではありませんが、赤い星があります。今年12月に地球に最接近する火星です。これから9カ月ほどかけて地球に接近し、それに伴って明るくなっていく様子を、時々観察してみてください。

